



第63号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 (E-mail)
 matsuka@kosanji.or.jp

復興永代経の法話

M・M

勅使英照師の法話はいつ聞いても易しく楽しい。お経の話や念仏の大切さを現代生活の中で、それを生かしているかを確認する対話も入り聞法の場に惹きこまれた。今回の法話の中で私の心に残ったものを二つあげます。

一、物事を比較するな

比較することによって人生の苦しみが始まり、挙げ句に自分を見失うこともある。天上天下唯我独尊とは、お釈迦様が生まれてはじめて言われた言葉で、他者と比較して自分があるのではなく、自分は世界でたった独りの人間であるということである。この考え方を大切にナンバーワンではなくとも、オンリーワンであれ、ということだ。だからこの世に生を受けたらベストを尽くして生き抜けと諭さ

れた。いつも家柄や財産、名誉や能力を気にして生きる自分をみつめなおしたひとときでした。

二、八万四千のお経を知っていても

信心ある念仏に勝るものなし

もつともなことですが、なかなか阿弥陀様の救い（絶対他力）を信ずるより自力に走る毎日です。反省しきりです。

三、「ごめんね」「いいよ」「ありがとう」と

言える子どもを育てよう

多度の小学校の話。何十人も一緒になって跳ぶ、大縄跳び大会で、新記録寸前で一人の子どもが失敗した。他の子ども全員が失敗した子供一人を「いいよ」と許したか？

先生は失敗した子どもの「ごめんね」という言葉に他の子どもたちが「いいよ」と許してあげられるか、そういう人間関係を築き上げることができているかが問題であって、縄跳びの記録なんて二の次だと考えていたという。

勅使先生は、これこそが「仏、念仏の世界だ」と言われた。なかなか人は「ごめんね」とは言えない。しかし「ごめんね」と言えば「いいよ」と返ってくる関係こそ大切なことだと。

真宗高田派本山

専修寺せんじゆじに参詣

秋田宗和

去る四月二十一日、廣讚寺同朋会親睦バス旅行に参加した。旅行先は真宗高田派の本山である専修寺。参加者は総勢四十五名、中には、すでに何度も参詣された方もみえたが、私には初めての参詣であった。

バスを降り、伽藍がらんを目の当たりにすると、なんと伽藍の大きいこと。敷地の広大さにも大変に驚いた。

御影堂が二度の焼失に遭いながら、日光東照宮と同じ技法で建立され、重要文化財に指定されていること。同じく重要文化財に指定されている如来堂は、阿弥陀如来立像を本尊として甍いらかむねがわら(棟瓦)を戴く細部には一つ一つに動物等を彫った彫刻がされている。重厚長大じゆうつうちやうだいにして繊細な造りの伽藍を拝見し、あらためて親鸞聖人の教えを受け継いだ歴代上人の偉大さを感じた。

専修寺の歴史と高田派について、本山の職員の方の説明はわかりやすかった。しかし行きバスの車内で事前



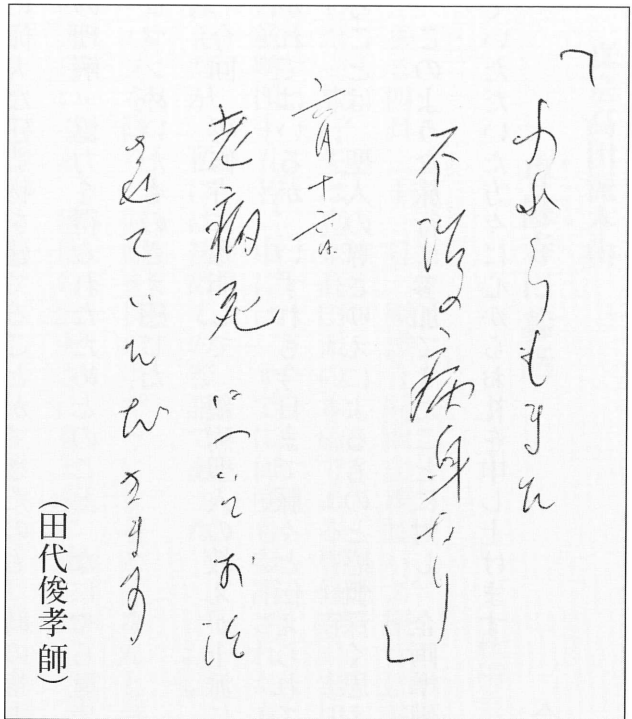
に伊藤さんから、浄土真宗には十の宗派があること、そして親鸞聖人の血筋としての宗派と、お弟子さん方による宗派が脈々と受け継がれていることなど、懇切丁寧な説明を聞いて予習していたおかげであり、大変に有り難かった。

去年の秋季永代経で廣讚寺一座が演じた、親鸞聖人が亡くなる寸劇で登場したけんちぼう顕智坊が高田派の三代目、顕智上人であること。第十代目、しんえ真慧上人が三重県のこの地に偉大な建造物を建てることのできたのも、時の権力者の理解・協力を得られたためとのこと。なにやら歴史のロマンめいたものさえ感じた。

今回、専修寺に参詣して、親鸞聖人の教えがじゅつぱ十派に分かれてはいるが、いずれも今日まで脈々と伝えられていることは、聖人の尊さゆえによるものと感慨深く思えた。このような旅行に参加できたことに対し、企画準備していただいた方々に心からお礼を申し上げます。

合掌





六月十六日(日)

午後三時～四時半 法話

講題「われらもまた不治の病身なり」

講師 同朋大学大学院教授

生命倫理学者 田代俊孝師

午後五時より

- 前住職 讚海院釋亮昭 三回忌法要
- 前坊守 廣嘉院釋妙文 一周忌法要

を勤めます

行事予定

六月 八日(土) 七時半 同朋委員会・例会 (役員は七時)

十九日(水) 二時～四時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講

七月 十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会 (役員は七時)

十九日(金) 二時～四時 学習会

◆◆ 納涼大会 ◆◆

二十一日(日) 六時半 納涼大会 (雨天決行)

人形劇・金魚すくい・

輪なげ・ビンゴ大会などなど…

楽しい催しものがいっぱい。

どなたでもご参加ください。

二十二日(月) 九時 後片付け

二十八日(日) 十時 二十八日講・女人講

【20 組行事予定】

推進員養成講座 六月 八日(土) 一時半より

六月 二十二日(土) ”

懇 親 会 六月 二十九日(土) ”